



2学期がスタートしましたが、みなさん元気にお過ごしでしょうか。  
今回は、夏季休業中に行った研修会の報告をいたします。今後の指導の参考にいただければと思います。子どもの学びを保障するために、日々研鑽し実践していきましょう。

## 子どもの育ちをつなぐ研修会

7月30日（火）遊youひよしを会場に、管内の保育所（園）・幼稚園・こども園・小学校の教員など約80名で開催しました。



## 講演

### 「子どもの育ちと学びをつなぐ 保幼小連携・接続」

関西国際大学

准教授

むくだ よしゆき  
椋田 善之様



（小学校）★今年度始めに幼稚園との交流はありましたが、子どもの様子を聞くことや、好きな遊び、生活の様子を聞くことに止まりました。「接続」という言葉にもあるように、もっとカリキュラムから幼稚園とともに作成したり、遊びの質を高める工夫をしたり、できることがたくさんあったなと思いました。

（保育園）★保幼小連携において、保育者と教員の交流を大切にすることが重要だと気がきました。幼児期に培った力が小学校に上がったときにゼロから始まるのではありません。幼児期に身についた力がより良い力となるためには、職員間の交流、子ども同士の交流が必要だと感じました。「遊び込める子は、学び込める子に育つ」ということが特に印象に残りました。

（こども園）★「分かっている当たり前」とどこかでなっていた10の姿に加え、近年言われている「幼小接続」について改めて丁寧にわかりやすく伝えてくださったので、学び直しをすることができました。こうして、学びを重ねていくことで理解も深まるだけでなく、また違った視点で捉えることができ、学びになりました。「交流しよう」と思うばかりでなく、自然な形で交流（接続）が文化となるように、「できることから」と思いました。



（幼稚園）★講演の中で、いろいろな市の幼小の交流の事例を知り、幼児期の遊びの共有だけでなく、小1の遊びの環境づくりに幼保この先生も入って一緒に作っていくことが大切だと感じた。幼児教育と小学校教育のどちらかだけでなく、教師同士が肯定的に子どもの姿を見取っていくことの大切さを改めて感じた。

## グループ交流・協議

### 「子どもをまんなか

～接続・連携・交流の事業を考える～

目指す子ども像を大切にしながら、接続・連携・交流の事業を考える。



（小学校）★交流をとおしてこども園の先生方が大切にされていること、苦勞されていることを知ることができ、たくさん学びがありました。子ども達同士が交流することがもちろん大切ですが、そのためには、まずは教師がお互いのことを知ろうとすることが大切だと思いました。目指す子ども像はとても似ていたのでもっと共に子ども達を育てていきたいと思いました。

（保育園）★小学校の先生の話や幼稚園の先生の思いを聞くことができた。それぞれの園・学校・先生の思いがたくさんあって、今されていることなども知ることができて、「つながる」ことが子ども達に返っていくのだと感じた。交流や小学校のことを知りたいと思ったし、小学校の先生とも「つながりたいね」と話ができ、良いきっかけになったらいいなと思う。

（幼稚園）★交流の時間が本当にあつという間で、もっと話がしたいくらいでした。幼児教育と小学校教育、互いに知ることが本当に重要だと考えます。教育の根っこの部分（目指す子ども像）は一緒であること、子どもの育ちを願う思いを共有できたことがうれしかったです。「より接続が円滑にできる1歩」が歩めるよう活かしたいです。

◇ 次回は、3学期に「未来へつなぐかけ橋研修会」を予定しております。多数ご参加ください！